

授業研究

今年度の本県の理科初任者9名が参観する中、本校の授業改善テーマである「ICT×探究」の実践研究に日々取り組んでいる國府田先生の授業研究が行われました。

國府田先生は、前時に Google Classroom で集めた意見や質問を生徒全員に紹介し、そのクラスで共有した内容を授業の導入として活用しています。生徒達が意見や質問を共有することで、自らの学びの段階の把握やこれから授業で何を学ぶのかについて明確にし、次の課題を見つけやすくするという狙いです。

生徒のコメントには、既得事項をもとに「どうなっているのだろうか？」という疑問をコメントしているものもあり、今回はその中のひとつ、「赤血球はどれくらいの量の酸素を運べるのか？」をテーマとして取り上げ、授業を組み立てました。意見が採用された生徒にとっても励みになると思いますし、その都度、生徒からの意見や反応を掬い上げることで、状況に応じた授業を展開することができました。また、電子黒板を用いての説明（デジタル）と手元のプリントにおける作業（アナログ）が有機的につながり、リズムのよい授業展開がみられました。

授業の終わりには、タブレットを用いて、意見等を入力させ集約することで、生徒の理解度の確認を容易にし、効率良く授業の振り返りを行うことができました。今回は実施しませんでした。授業の内容を3文でまとめる作業（OTA：Output The Abstract）も知識を活用しながら表現力を高めるアクティブラーニングとして日頃から活用しています。

また、ICT 機器を「使う」こと自体が目的とならず、生徒の理解を深め、「良い学び」を提供するために ICT を活用するというスタンスが確立されているので、生徒の積極的な授業参加にもつながっていると考えられます。それぞれが見出した課題の解決を図り、その解決策から次の課題を見出すプロセスのすべてが「探究活動」となり、生徒の探究力、そして課題解決能力の向上につながっています。



(1) 授業の導入



(2) 理解を深める（探究活動）



(3) 進み具合を確認



(4) グラフの作成



(5) まとめ 振り返り